当協会の参与で、県教委社会教育課長等を歴任された髙橋寛氏より、これまでの本県社会教育のあゆみについて振り返っていただきます。今号は第６話です。

岩手の生涯学習物語（実践期編）

第六話　「“Integrated（統合）”志向」の巻

元岩手県教育委員会事務局社会教育課長　髙　橋　　寛

「生涯教育推進事業」にもう一つの試みがありました。生涯学習推進には避けて通れない概念“integrated（インテグレイテッド）”（統合）の具体化です。今回はそのお話です。

1940 年フランスのポールラングランが提唱した「生涯教育」の英訳は “Life Long integrated Education”です。言葉どおり和訳すれば「生涯にわたる統合された教育」となりましょうか。単なる”Life Long Edu-cation”ではないのです。

“integrated”とは？

私達の生涯にわたる教育は、まず揺りかごから墓場まで時系列に考えられます。と同時に、その教育活動が行われる場を想定して家庭、学校、社会など空間的広がりでも捉えることができます。

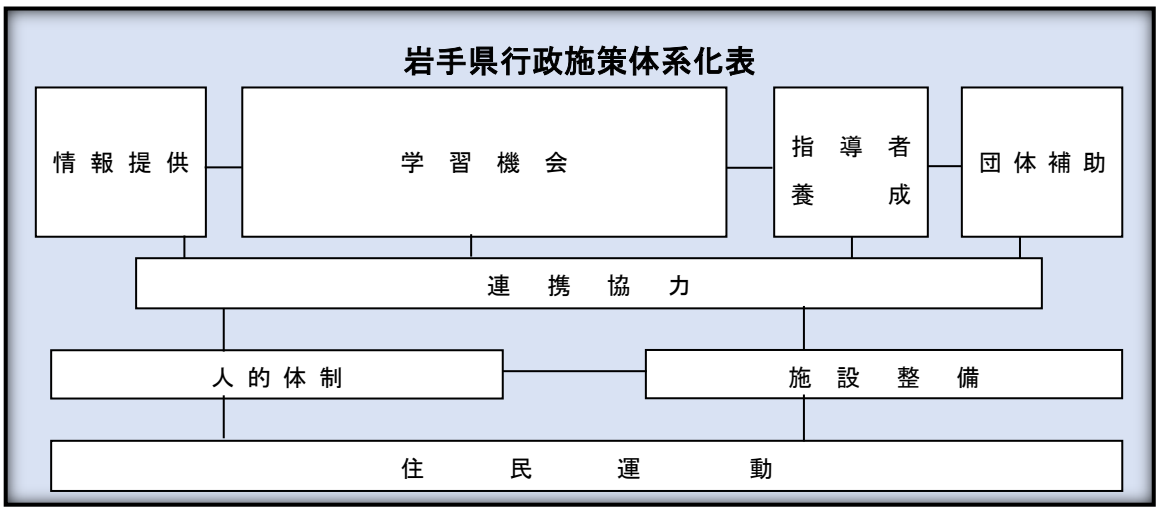
その教育活動が“integrated”（統合された）ものが生涯教育というのですから厄介です。何をどう統合されるべきでしょうか。このことは生涯教育が我が国に導入された当初から大きな論点でした。

行政施策に限定

岩手ではこの統合概念を行政施策に限定して推進することとしました。即ち、県の行政施策の教育活動を全て把握し、それを分析判断し統合化を考え今後の生涯学習の効果的な推進策を編み出すそうとするものです。

そこで考え出されたのが行政施策を体系的に捉えるということです。下図の体系化表に見る通り八つの視点から体系化したのです。もちろん、一つひとつの視点は事業の対象を縦軸に、事業形態を横軸にしてパラダイムを作っていったのです。（下の表参照）

【学　習　機　会】

	個人学習	集会行事	学級講座	地域活動
少　年				
青　年				
成　人				
高齢者				

このようにして、当時実施されていた県庁内の行政施策―青少年教育事業 327 事業、成人教育事業 347 事業、高齢者教育事業 50 事業が体系的に把握され、視点毎に事業の偏りや重複・競合、欠落や取り組み不足等が洗い出され、県の行政施策（教育事業）は時系列的にも空間的にも統合化されて行きました。このことがやがて新しい学習プログラム開発の根拠となったのです。では、どんな学習プログラム、事業が開発されていったのでしょうか。それは次号で。